くらし　家庭

障害持つ女性が雑誌作り

企画や編集、モデルにも
おしゃれ、恋愛 前向きに

障害のある女性向けの無料季刊誌「Co―CoLife（ココライフ）女子部」が発刊され、注目を集めている。誌面に登場するモデルや取材・編集に携わるのは、いずれも障害を持つ女性たち。外出や恋愛に消極的になりがちな人たちに、「一歩を踏み出すきっかけ」を提供したいと、ファッションやグルメ、恋愛成就の秘策など、〝女子力アップ〟に役立つ情報を詰め込んでいる。（板東玲子）

「私の車いすを意識せず、仕事でもプライベートでも、一人の人間としてみてくれた。一緒にいて気持ちが楽になれる人だな、と感じました」

職場の上司と3年前に結婚した女性会社員(35)の話に耳を傾けながら、同誌編集スタッフの松永幸枝さん(30)が熱心にメモを取る。

11月上旬、東京都中野区の事務所で、27日に発刊予定の同誌第2号に掲載する記事のインタビュー取材が行われた。障害のある女性と障害のない男性がどんな風に関係を築き、夫婦になったのかを解き明かすという。

「障害があると恋愛や結婚に臆病になりがち。うまくいっているカップルを紹介することで、読者に前向きな気持ちになってほしい」と松永さんが企画した。松永さん自身も耳に障害があり、「この仕事を通じて、徐々に自分に自信が持てるようになってきました」と話す。

同誌は今年8月に創刊された。福祉機器の貸し出しなどを行う民間企業が発行していた障害者向けの有料季刊誌が前身。この雑誌は昨年、資金難で休刊となったが、読者モデルなどを務めた障害のある女性たちから復刊を望む声が高まっていた。そのため、障害者の支援などを行うNPO法人「施無畏（せむい）」（東京）が編集権を引き継ぎ、協賛金や広告料などを元に無料季刊誌として再出発した。

約20人の女性らがボランティアで参加し、企画や編集、営業などの作業にあたる。誌面に登場する障害者モデルもインターネットなどを通じて募集した。

素人集団の上、スタッフの多くが平日は別の仕事を持っているという。プロデューサーの遠藤久憲さんは、「時間もお金も人手も足りない作業だが、当事者自らが手作りする雑誌は珍しく、意義は大きい」と強調する。

第2号の巻頭では、車いすなどの操作がしやすい薄手の冬服ファッションを特集するほか、車いすで京都のパワースポットを旅する企画、セックスについて率直に語り合う女子座談会などを掲載する予定。1万部を発行し、全国の福祉作業所やリハビリ病院など、協力施設約130か所で入手できる。場所はホームページ（http://www.co-co.ne.jp）で調べられる。

「障害のあるなしにかかわらず、おしゃれや恋愛を楽しめる社会になれるよう応援したい。待っている読者のためにも長く続けたい」と遠藤さんは話している。

車いすを使用する女性とその夫を取材する松永さん（左）＝東京都中野区で

今年8月に創刊された「Co―CoLife女子部」。第1号は好評のため3000部を増刷し、計8000部が発行された